



▲第1号墳の正面



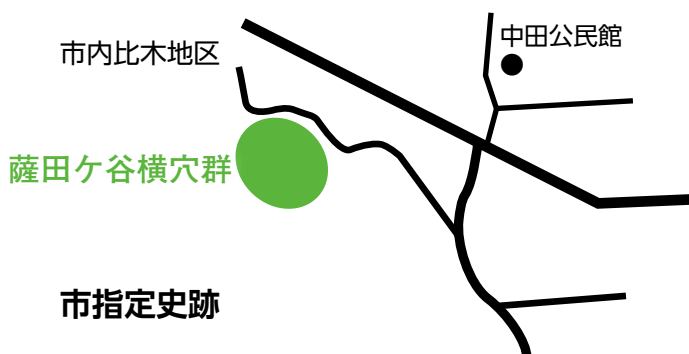
▲薩田ヶ谷横穴群の全景（第2～6号墳）



▲薩田ヶ谷横穴群出土の装身具



▲薩田ヶ谷横穴群出土の須恵器類



薩田ヶ谷横穴群

History

キラリを再発見

箴川流域最大の横穴群

薩田ヶ谷横穴群は、宮内の薩田ヶ谷の奥にあり、標高50m程の丘陵の南斜面に立地しています。

この横穴群は昭和38年に発見され、昭和39年に第1～4号墳、昭和40年に第5・6号墳の発掘調査が行われました。

その後、箴川流域では最大の横穴群であることが判明し、学史的に有名な遺跡であることから昭和53年に旧浜岡町初の指定史跡に指定されました。

薩田ヶ谷横穴群は、古墳時代後期（6世紀中頃）に第1号墳が単独で構築され、やや遅れて第5号墳が構築されたと考えられています。その後7世紀に入ると、形態が似ている第2～4号墳が構築され、最後に小型の第6号墳が作られて横穴の造営が終わったようです。しかし、奈良時代前半（8世紀前半）の須恵器が出土していることから、この時期まで追葬が行われていたものと推測されます。

御前崎市の横穴を代表する薩田ヶ谷横穴群は、約1世紀にわたり3～4世代を重ねた、古代家族の動向を反映する貴重な文化財です。

照 会 社会教育課 ☎0548③1129

国からは資源の少ないわが国で、海外に頼る化石燃料の燃料費高騰が電気料金に跳ね返り国民生活に大きく影響しているなどのエネルギー需給構造の課題や環境適合性、再生可能エネルギーの導入状況などを示しました。その中で安定供給性や低コスト、環境負荷に優れた原子力発電は、福島原発事故の深い反省のもと、

経済産業省資源エネルギー庁の担当者が4月21日、市役所を訪れ、臨時全員協議会の場で石原市長ら市幹部と市議16人に対して11日に閣議決定された「エネルギー基本計画」の概要を説明しました。エネルギー基本計画は、エネルギー政策基本法に基づき、国の中長期的なエネルギー需給構造を視野に3年ごとに見直されるもので、福島原発事故以降では最初に示されたエネルギー政策の指針となります。

と、安全性の確保を大前提に重要なベースロード電源と位置付けられました。高レベル放射性廃棄物の最終処分、中間貯蔵施設や乾式貯蔵施設などの建設・活用を促進し、立地自治体などとの信頼関係の再構築に向け国の取り組みを強化するとしています。

Atomic

暮らしと原子力

国がエネルギー基本計画を説明



▲説明を受ける市幹部と市議会議員

市では、今後も国や事業者に対して節目ごとに状況説明を求めていくとともに、国の動向を注視していきます。